



祝紀元節

十一月

月刊の辞

出動の準備完成した我
... (transcription of the main article text in the top section)

No 1
昭和
7.2.11
曜日
天候
出航

外でも... 和衷協同... 本職着任の当初... (transcription of the middle section text)

飛行機... 見送りを... 無量の... (transcription of the bottom section text)

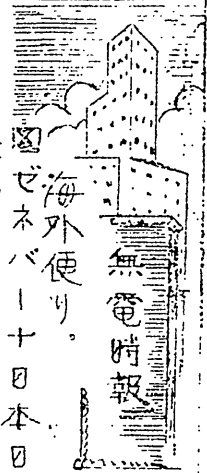
皇太子の御遊覧... 紀元節の佳節... 皇太子の御遊覧... 紀元節の佳節... 皇太子の御遊覧... 紀元節の佳節...

常識講座



朝鮮支那語... 朝鮮支那語... 朝鮮支那語... 朝鮮支那語...

日本語	朝鮮語	支那語
オシヨ	ニイライ	
ヲオ	ライ	
カオ	チユイバ	
トラカラ	ホエチネ	
オソオツ	クワイクワイ	
カマニ	マンマンド	
オシヨ	オシヨ	
オシヨ	オシヨ	



海外便り... 東京十一日政府は満洲軍... 東京十一日政府は満洲軍... 東京十一日政府は満洲軍...

軍縮論議の席上... 軍縮論議の席上... 軍縮論議の席上... 軍縮論議の席上...

強国と弱国... 強国と弱国... 強国と弱国... 強国と弱国...

編輯方針... 編輯方針... 編輯方針... 編輯方針...



昭和 7.2.12 金曜日 天候 出航

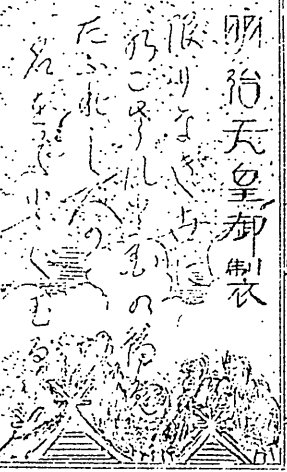


社説

支那の民族性

笑答心の閑

敵の民情(三) 仄聞する所によれど敵の飛行機が〇〇依り〇〇に飛来したといふ果して我に向つて奇襲せんとする計画なりや否や? 此の場合敵の情况が明鏡に照す如く味方に解れむ之の対策は容易であらう。蓋取引でも勝負を決する武技遊戯でも男女之間の問題でも同



長い嘘つきである。問悪い政治にさいな

対象物即ち相手の真物を正解するに苦心するものがある。今我々が対峙の目標は支那人である。所謂中華の矢筈である。此の際支那民族性の記憶を

まれて来た支那の國民は弱者の武器とも云はる、嘘の習慣が養成されて居る。平気で嘘八百をふらべる約束を違へるのは尋常茶飯事だ。

島帝國に生れた吾々の想像も及むぬ荒漠たる大陸は支那民族をヌーボー式にしている。以下次号

常識講座

朝鮮	支那語	朝鮮
日本語	支那語	朝鮮
符チマ	ト	モタリイソ
イ(暹羅)	ミト	エ(ネ)
私	ウ	ナ
私等	ウ	ウ
御前	ニ	チヤネ
アアタ	ニ	ダグンシン
汝等	ニ	ノエツル
彼等	タ	チヨイゾ

海外便り

上海十一日南浜路三義理
 一帯の敵は十一日早曉一時
 半頃夜襲し乗り込戦二時間
 に及ぶ敵は多数の死傷を
 遺棄して我が高橋部隊の
 に撃退せられた。
 四十一日午前八時敵は吳淞
 海岸永安紡績の後方より歩
 兵砲連撃砲を以て猛烈な砲
 撃を開始我軍は之に對し山
 砲を以て応射激戦中。

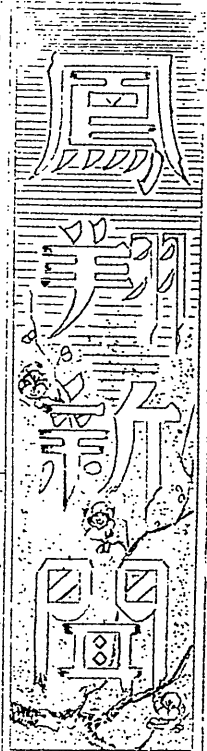
支那側又毛我艦三対し乱射

十一日午前九時過ぎ上流
 にある我軍艦安宅常益に對
 し日清汽船社長を射たと同
 じ場所の支那側は一斉に射
 撃す。
 四十二日洪松上空にて微醉氣
 秘裡に行動しつつある日本
 軍は十四日迄に上海に上陸

兵力を集中準備を整へ十四
 を期して攻撃を開始し一舉
 に支那を虜るものたらんと
 華府に於て一般に觀測米政
 府は之の応急策として艦船
 を狩り集めて在留米人引揚

愛人の前途以て知るべし
 夫「まあ随分水三十分と約束の時分に遅れ
 込んで、どういぬ男、まあさういふ傾をよみて
 途に於て
 考へた
 皆な皆々
 していつ
 のや、
 妾しを待
 かに立、何て見て居馬鹿が有りませう
 男「ウ、俺も手傳つて探して、探して、探
 ろう、う、思つたんだがね、丁度俺が
 其水を飲んで居たんでね、
 ？」

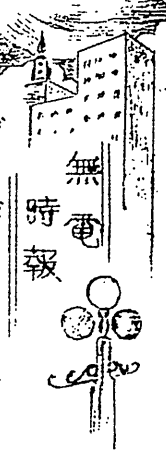




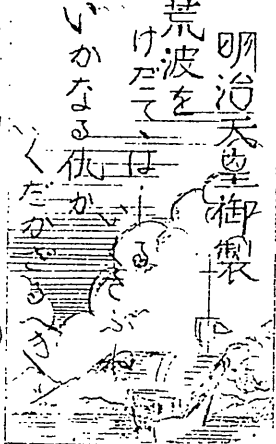
NO. 3

昭和 7. 2. 13 土曜

出航



明治天皇御製



笑不答心閑閑

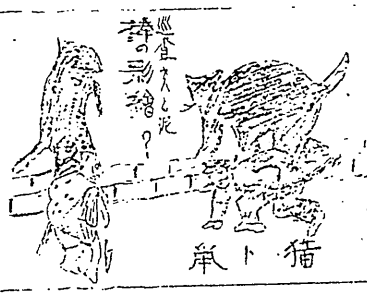


宿命論者である。限りなき天妻地妖絶えざる人爲的動乱はなほ疎にしか

一の一大原因である。國民革命軍が北伐ニケ年大國の本の三十倍もある支那大國が隅々まで青天白日旗が翻ったとは云つても支那全土が之を歓迎したものでない

題を中心とし支那側は愈々聯盟決に關し支那側は愈々聯盟總會に持出す事とし規約第十五條第九項を引用し特別會議召集を要求するに決した模様

て一種の了解が成立せる争密中橋内羽は病気のため自
 実ありと。即ち引籠り今や選挙対策も
 日兎手斃れた前藏羽井上準
 之助氏の葬儀は昨
 日正午から青山葬
 場で行なわれ、約
 四百名が参り、
 例の上海十二日支那
 の我極松花官は
 断然全線に亘りた
 が、唐意を開始した
 更に今後は此の種の
 停戦申出は絶対に應
 声明す。
 日午前七時英米總領
 事館に午後七時迄の
 間延長を甲込んで未
 本側拒絶す右延長を
 衣隊の潜入を策謀した
 嗽す。
 日支那軍夜半に入り盛
 砲撃し未便衣隊各所
 退植松指揮官も断呼決
 戦各戦線を夜中巡視し
 野砲々撃を開始す。



常識講座
 朝鮮 支那語
 日本語 朝鮮語 支那語
 誰レリ? ヌグヨ シユイ
 何處デスカ オデヨ ナール
 此處 ヨムギ チヨール
 其處 コーダ ナール
 彼處 ナヨダ ナール
 右方 オルンピヨシ ニウセル

職力退力士を断然
 破門するに
 分す。民政二八。大家一三。其
 合計七百八名。

川柳漫画

郵便物到着スグチ。

遠マある船へ
涙も拭かず立ち

原稿募集
 漫画 其他 奮って御投票
 漫文 (新聞班)

香リ芳シス紅封筒
 当るまでふきよめ
 込んで馬鹿ノ

伍長室前の賑ひ

オイヤヒマ何リチ紙た
 念入ル立換ハルホー



NO. 4
昭和
7. 11. 14
日曜日
出航

いぢめ即ち弱点の利用には
徹底的である従て彼等に
しては決して弱点を見せ
はならぬ此方から強硬に
出るとおとふしくかつて
手に出ると然しウツカリ
を打つ国民である。

明治天皇御製
軍艦(明治三十五年)
波遠く照す烽火かいつ、
仇守るん代々くさふね

笑不谷心何閑(其三)



政治を一種の商賣としてゐる
軍閥が商人から財貨を採取
する争及び官吏が私腹を肥
すのを何とも思はない労働
運動でも昨日運動でも一種
の職業となつて居る徹底し
た主義主張はない示威運動
の行列債が普通五十銭女學
生の一門だと云ふ。効果ある
とて複雑多面的である。人
をば「好人(グッドマン)」と呼んで
い

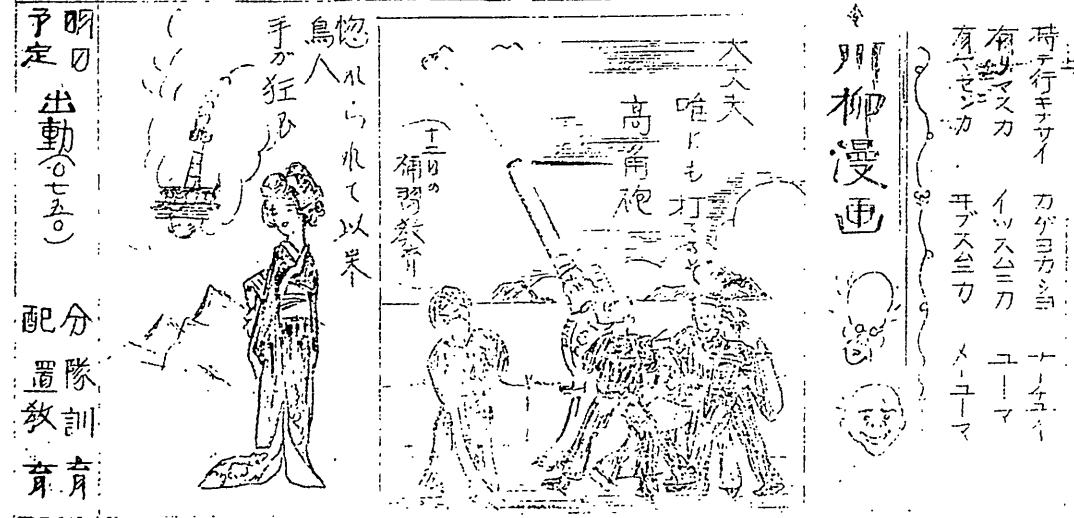
ば「お人好し」と云つて輕蔑す
るに反し所謂喰へない人を
「不好人(スオール)」と云つて
人と云ふ一種の敬意も寧ろ呼
ぶ支那の傑物は大抵三重三
重の人物所存者だ彼等の芳
案した麻雀は支那人の複
雑性をよく物語つて居る
支那人により團子。嵌る諺だ
甲主義乙主義と喝へるの
其れが彼等に有利だかうだ
その主義が実物乃至實際的
であれば之を尊重するが條
約とか契約とか一片の紙に
書いたものを反古同然とす
る実利を愛する國民である
徹底的な利己主義者である
形式は非常に喧嘩内容
貧弱である誅求採取弱者

「セキ」三今日午後五時半
に開かれた特別聯盟總會
に關する三朝會議は審議二
間の遂に理爭會は支那の
會要求を拒絶に決し議長も
任を避く。
西上海三朝會議河をばマ
を持して対峙中の我部隊
を今朝未明壯烈なる激戦
を敢行敵前朝采の雪にも
奪上海三朝采の雪にも
奪戦屢々快勝の左翼の部



隊の山本部隊は午後三時頃、民政二八〇、勞六三、社民一六、
 内閣で大激戦、撃退せしめ、地方無産、革新三中、立其の
 なが山本八尉伊藤。隊長後、他四六、總教に於て前四、
 藤上等兵等三名戦死す。一、二、八、名、減、小、無、投、票、区、は、九、
 福岡の〇〇隊の江口特務曹、千、約、三、二、名、存、在、政、二、民、政、
 長以下五名は江湾の敵情視、四、上、海、に、乗、り、出、し、列、強、と、の、
 察に向たか、余り深入りし、首、デ、リ、ケ、ト、サ、外、交、に、腕、を、奮、
 家、也、阿、近、で、三、〇、〇、名、の、敵、に、包、と、云、ふ、特、使、松、岡、洋、石、氏、昨、
 獨、我、が、軍、奮、闘、三、十、分、血、路、を、開、け、夜、東、京、驛、奔、上、海、に、向、ふ、昨、
 獨、奉、天、三、日、新、滿、蒙、開、き、本、部、に、引、上、ぐ、善、鏡、は、伊、藤、少、尉、
 獨、立、國、家、建、設、に、熱、心、を、注、ぎ、前、有、の、も、の、で、判、明、
 河、省、主、席、湯、玉、麟、氏、の、武、夜、闘、仇、敵、寒、雨、ん、だ、も、の、と、判、明、
 愈々参加を決意す。我、武、維、揚、南、支、空、河、を、渡、り、敵、陣、近、
 四、東、京、十、四、日、第、十、旭、光、麗、仰、紀、元、節、左、翼、鏡、隊、は、激、戦、
 九、路、軍、は、依、然、我、軍、を、侮、蔑、攻、撃、時、間、午、后、〇、時、邊、に、戦、死、三、
 撃、手、を、緩、め、ず、居、留、民、の、安、全、重、軽、傷、二、〇、名、を、出、した、尚、激、戦、中、
 を、脅、か、す、こ、と、甚、し、き、爲、我、軍、を、今、や、其、の、任、務、と、威、信、の、爲、
 支、那、軍、が、交、戦、せ、ば、断、呼、実、刀、を、行、使、す、旨、昨、夜、陸、当、局、声、明、
 す。

常識講座
 日本語 鮮語 支那語
 左ノ方 オエンピョン ツオベール
 来マシタ ワツソ ライラ
 持テ来ナイ ガジョオシヨ ナーライ



NO. 5

 昭和 7.2.15

 月曜日

 出 発

 航

 時 報

明治天皇御製(明治五年)
 戦の道には立たぬ國民の
 心をくたくころの

笑不谷心包閑
 社説

二人の喧嘩してゐると、殊次
 馬が其のケルリに黒山を等
 めて両方共我先に群集に向
 へて自分の道理ある事を訴
 へてゐる。其の群集が道理
 を認め、た方が勝つ戦争を
 つは、はじめよと云ふ場合
 の戦争は、矢刀より人気の

ある方が勝つ彼等は、実に對
 外的宣傳ときたら手に入つ
 たもので、いかに聰明な國で
 も一度や二度は必ずこのコ
 ツでやられる。今次の國際聯
 盟の如きは、其の好例である

常識講座

日本詩	朝鮮詩	支那詩
有リマス	イツソ	ユ一
有マセン	オアソ	メーユ一
智覽デサイ	ホシーヨ	カンカン
見マス	ボムニダ	カン
何デスカ	ムオヨ	シエモ
左様デスカ	クロツスニカ	シーマー
左様デス	クラツスムタ	シーシー
アイエ	アーニヨ	プーシ
判リマセン	アルスーオプ	アーミンダ
虚直ウ	コリンマル	カーホン

上海の威風堂々軍用船
 丸外七集に分乘し巡洋艦
 以下の隻に護衛された皇軍
 隊。園長以下。名は歡呼裡
 今朝九時過に全部上陸す
 くて宿舎に入り遂に陸軍
 越つて部署に就く上海夫那軍
 壊滅迫る。
 植田の行動開始は、兩三
 日中予定で敵に退却の余地
 を與へず電光石火的に總攻撃
 をなし一撃に敵を全滅の方針と
 日本陸軍未着の報に支那側
 十九路軍昨夜未早くも其の一
 部退却行動を起しつゝあるも
 の、如し。
 四明公署前に日本人二名刺
 首になつて居るを拵見此の言
 語に絶する支那人の慘虐に我
 軍義憤を新にす。
 日ソ連盟支那代表

部は本日日本の世界... 無視し敵対行動を續けて... 居る事と同責の声明書を登...
 表す。

東京に三師團より... 氏旅團に次で第九師團... 陸軍省公表...
 陸軍省公表

本郷小石川四谷牛込... 除き選挙達及續出警視... 山をなし総動員の大活動...
 開始す。

笑話

他は「新業、男者おん、男の手を見て...」
 「その貴方は確かに人先にも立つ人だ、と云う...」

(反比例)先見の明の例をあげて御覧な...
 さういふ「六ヶ月前と先」先「何故に...」
 生「祖父は先ず張れば御せんか船をまします...」

(骨がある)「骨が海産物のいっぺんを知ら...
 んらぬ」初「骨も骨と骨の骨と骨と骨と骨と...」
 れるげに「骨は骨と骨と骨と骨と骨と骨と骨と...」

(其の心を)「新業、男者おん、男の手を見て...」
 「その貴方は確かに人先にも立つ人だ、と云う...」

「新業、男者おん、男の手を見て...」
 「その貴方は確かに人先にも立つ人だ、と云う...」

自動車の運送手其れは先々の道の上... 走つ居る體格でずうら安心です...
 (靴はばき通)

「どう？ あなたの許婚者が子吃り... ますか？」
 「え、でも話をしていなければ... 吃りとは見えないわ？」

(どうもどうも)「抜いて一尺五寸横か三尺五...」
 すのめを下さる店員「サー、丁度其の長さ... は山切に成りましたんで横が五寸縦が二尺...」

「高がさう」
 (高がさう)「高がさう...」

(高がさう)「高がさう...」
 (高がさう)「高がさう...」

(高がさう)「高がさう...」
 (高がさう)「高がさう...」

(高がさう)「高がさう...」
 (高がさう)「高がさう...」

(高がさう)「高がさう...」
 (高がさう)「高がさう...」

(高がさう)「高がさう...」
 (高がさう)「高がさう...」

(高がさう)「高がさう...」
 (高がさう)「高がさう...」

(高がさう)「高がさう...」
 (高がさう)「高がさう...」

(高がさう)「高がさう...」
 (高がさう)「高がさう...」

(高がさう)「高がさう...」
 (高がさう)「高がさう...」

(高がさう)「高がさう...」
 (高がさう)「高がさう...」

川柳

バスで養理あがり... 他人を流し合ひ... 薬風呂 浮世に... 遠い顔が浮き...



新兵に素的な... 奴が合ふに...

新兵に素的な... 奴が合ふに...

新兵に素的な... 奴が合ふに...

新兵に素的な... 奴が合ふに...

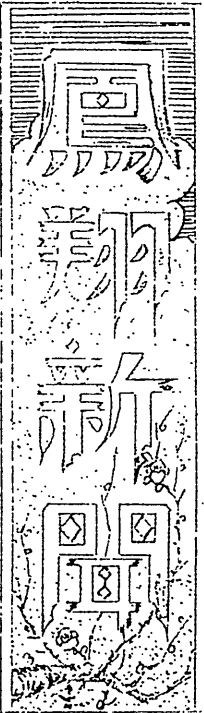
新兵に素的な... 奴が合ふに...

新兵に素的な... 奴が合ふに...

新兵に素的な... 奴が合ふに...

タンクノ容量	種水	出出タンク	九ト
飲料	飲料水タンク	飲料水タンク	飲料水タンク
雑水	雑水タンク	雑水タンク	雑水タンク
排水	排水タンク	排水タンク	排水タンク

明日 予定 配置教育



No. 6

昭和 7. 2. 16

火曜日

天候

出航

2. 畏き聖者かしの子て
 3. 心を鍛へ身を鍛へ
 大御心に於たへんと
 我等は凡て覚悟あり
 見よ大海の波わけて
 勇往邁進一すじに
 我等の責務果さば也

明治天皇御製(明治十年)
 魂はいつくをなほ守る

社説
 笑不答心旬閑 (其五)

(九) 先天的経済家である
 支那では御茶代が二つに分
 れて居る即ち茶の葉の代と
 白湯の代である茶館で二
 の茶の葉の代は茶朝で之を
 買へば一銭であるから茶館
 で御茶を呑まうとする時は
 先ず茶朝で茶の葉を買って茶
 館で只白湯を貰つて其の代
 を持つ宿屋でも部屋代食堂
 の器具代は別々になつて居る
 のみならず御飯と御菜も別

計算而も饅頭何何ウシ
 と勘定する一文と虽も彼等
 は世界無敵の一文と成功し
 て居る此の栄利心が強いた
 めに彼等は蒲團一枚かつい
 で海外に發展する極めつて
 な衣食住に彼等は馳れ
 居る労働者は一切十銭か二
 十銭で僅に生きて居る彼の
 吾刀は実に頑健であるもし
 彼等のために世界が門戸を
 開放したならば此の苦力部
 隊は忽ち世界の労働市場を獨
 占するであらう。(以下次号)

偶感
 大和島根を固く
 我輩は艦を遣り

無電時報
 上海五の吳淞砲台を顔強に
 死守して居た敵軍は我陸海空
 軍からの攻撃により完全に破
 壊され今朝八時頃から敵を
 して西方に解走了
 部隊は朝来我が陸戦隊野砲隊

セネーの陸兵上海上陸と
 共に支衛突期待され聯盟
 々緊張し五日には待に支を
 加へた秘密理争會を用く事と
 なり

の掩護射撃のもとに江湾方面に迫撃を開始し戦はざるに敵を圧す後續部隊も今朝上陸。

○芳沢外相は今日英米佛三国大使の来訪を求め上海陸兵派遣に對する我態度を説明す。

○角力協會との交渉全く決裂した革新力士團は今日声明書を發し協會脱退を声明。

○尚三月上旬新興力士團と名の古屋で對抗角力を行ふに決す。

○今朝七時頃淺岡山赤爆發前橋方面に降灰あつたが被害はない模様。

○昨六日上海國際委員會の第二次報告に力を得た支那代表は聯盟理半總會の至急召集の運動をなし爲めに臨時總會を開かれんと尚五日開會の予定であつた理争會非公開會議は議長不在のため六日に延期さる。

○上海五日呉淞の敵が西方に移動するに反し南北の方面の敵は十五日俄かに行動汚濘となり迫撃砲弾を我陸戦隊本部に雨下し我軍野砲を忘戦中。

○五日早朝より我軍の砲撃により火災を起した呉淞砲台一千米前方の敵兵舎午後に至るも黒煙濛々として空を覆ひ延焼中。

○我陸戦隊員の戦死八名重傷者三名内戦死せるも奉天五日滿蒙新國家建設運動急速に進展し其日馬占山をシンガリ東北の巨勢全部奉天に集り即日建國會議を開き三省最高政務委員の成立を六日に声明す。

○頃獨立國家宣布の段取りとなつてゐる尚湯玉鱗の参加も確実と。

○東京六日昨夕荒木陸相は外務省に芳沢外相を訪問情勢の変化に依つて更に上海に増兵の重要打合せを多く既報昨夕外務省に英米佛

伊獨の五國大使の来訪を求めた芳沢外相は上海事件の我が態度を説明に大いにつとめ大の注意を喚起す。

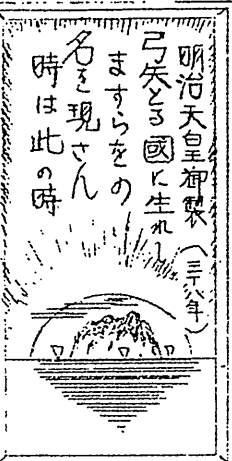
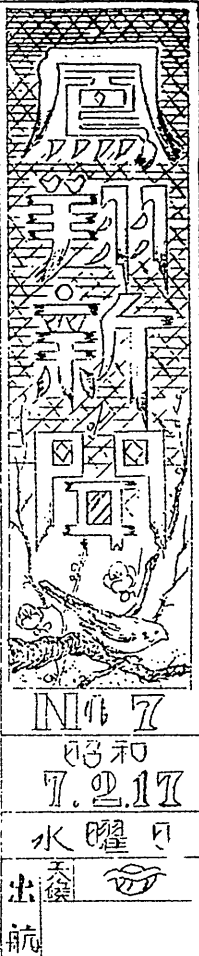
常識講座

- 日本語 朝鮮語 支那語
- 好イ ナヨソソ ハオ
- 宿屋 ナヨソク パンチエン
- 此レ イコ ナヨエコ
- 其レ クコ ナエコ
- 此 イー ナヨコ
- 其 ナー ナー
- 彼 ナヨー ナー

川柳漫画



明日 予定日課 補習教育 (機拳館)



社説 (其六) 笑不答心自閑

支那人には面子と云ふ争がある。面子とは吾々が男の顔にかし...


賭博の種類は非常に多きものがある。賭博の種類は非常に多きものがある。

隣邦支那常識的研究

支那の常識を研究する。支那の常識を研究する。支那の常識を研究する。

Table with columns for historical events and dates, including '民國以降元首交代の状況' and '孫文臨時總統'.

明治天皇御製(三章)
思ふことつらぬ
かすしてやまぬこそ
大和をこの
心なりけり



NO 8
昭和
7.2.18
木曜
天候
出候

鎮戍の任も吾々片外漢の
ふる如く簡單に片付かぬ事
も暗らねばなるまい(終)

科学小話

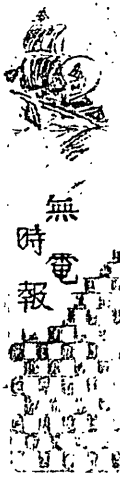
「適度の室内温度」

でかくして居るけれども
深病は蔓延しないといふ
は彼等支那人は絶対に生水
を飲まない生物を食はな
常に熱い湯を呑み料理は熱
く煮たてたものを熱い
に食ふやして蒸や蒸は知ら
常食する不潔の反面には
うした衛生家であるのであ
以上におけると其の
き材料の三%損になると
ある換言すると今室
ある換言すると今室
ある換言すると今室

社説 (其七)
笑不答心自閑

不潔だが衛生家である
支那人位不潔な國民性
ない支那野を歩
くても
する難
西瓜を平氣で食
執名
度生
だ
呂
のは女
物は疎

不潔だが衛生家である
支那人位不潔な國民性
ない支那野を歩
くても
する難
西瓜を平氣で食
執名
度生
だ
呂
のは女
物は疎



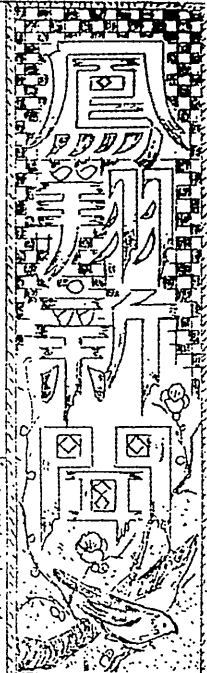
無電時報

の條約を引渡す。日本、
に對する通商の決定。
一、破れ本日の統領を討つ。内閣は五憲法に決す。
二、破れ本日の統領を討つ。内閣は五憲法に決す。
三、破れ本日の統領を討つ。内閣は五憲法に決す。
四、破れ本日の統領を討つ。内閣は五憲法に決す。
五、破れ本日の統領を討つ。内閣は五憲法に決す。
六、破れ本日の統領を討つ。内閣は五憲法に決す。
七、破れ本日の統領を討つ。内閣は五憲法に決す。
八、破れ本日の統領を討つ。内閣は五憲法に決す。
九、破れ本日の統領を討つ。内閣は五憲法に決す。
十、破れ本日の統領を討つ。内閣は五憲法に決す。

陸軍支那の意識的研究

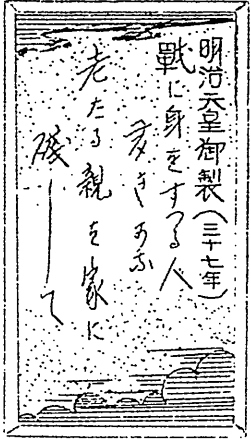
朝日新聞記者(被服洗濯) 録再保存手入

高イデス	カイヤオー	マイ	マイ
安イデス	カイヤオー	マイ	マイ
...



NO 9
昭和
7.2.19
金曜日
出刊

明日予定日課(大掃除防火教練)
止マル迅ヲ知ラザル速力ノ記録
(一九三三年五月調)



社説
隣邦支那常識的研究

彼ハ米國ニ學ビ復露國ニ
接近シ其ノ共產主義者
主義ヲ學ビ其ノ結晶ニ
モテ支那ニ對シテ革命
ヲ謀ルニシテ其ノ第一
初メテ支那ノ主權ヲ
ガクシテ其ノ主權ヲ
左ノ民族ニ歸スルヲ
人々以テ其ノ主權ヲ
人々以テ其ノ主權ヲ
人々以テ其ノ主權ヲ

民族主義者
支那民族
主權ヲ
主張スル
民族主義
者ニ對シテ
其ノ主權ヲ
主張スル
民族主義
者ニ對シテ
其ノ主權ヲ
主張スル

宣利ニテ郵國律ヲ異國
上言民依建ニ奉委レ議
海ヲ福ル國開天負借ハル
六奔ヲ善ノ力大ニ根日
の表國政根レリ附ヤ稼
上海ト治決五夜ト成シ
前日行シ頭欽定カ認上集
前戰立國道議氏

無電時報
陸上被 四八七。料(約三九。哩)示(示)示(示)示(示)
水上被 五五三。料(約三五。哩)示(示)示(示)示(示)

面養 國決 府盟 世争 シ目 口グ リノル 抗未 ヲ 躍弁 牒若 一軍 田人 7店 退射 寧夜 八
ノ首 荒ス 迫規 ル國 立ノ 東ミ 期争 用儀 国リ 華紫 動ヲ シ度 長代 一役 = 尙内 線ヲ 異
狀相 木ク 約行 ナ理 タ京 ノ待ダ 意カハノ 府張 ス 奈心 撤蔡 参名 ジ今 當迫 ノ明 賦
况ヲ 陸 猛違 動ル 争メ 大形 サガヲ 又日 報上 可シセ 退廷 謀員 通朝 地シ 敵シナ
=訪 相 省反 ハ日 固ニ 日ト レ其 シハ 本告 日ク 断ネ 7階 長傷 行便 ミ夕 陣夕 緊
就ヒ ハ 7ナ 明本 ガ 聯 スノテ 警ニ = 出 各呼 バ勸 トハ 今中 衣井 ガ地 ガ張
キ上 今 扱リ カヲ 常 盟 持効 イ告 強依 測 部実 最告 会十 朝ノ 隊物 戎ヨ 今裡
詳海 朝 スト = 無任 上 理 午果 ルヲ 硬レ 大 隊カ 后シ 見九 ハ支 燦産 軍リ 曉 =
細方 大 = 政附 職理 対手 ア余 ト送 丁バ 使 勇ヲ 通夕 シ路 時 那彈 支擊 猛浦 一

ト同 々時 = 公警 務ベ 小速 即今 告ニ 十ハ 公騷 集飛 一シウ 動部 公反 スド ハ△ 次報
ノ内 十猶 農村 戎印 皮回 ベ時 々於 九人 上々 綺行 方水 ス貨 西ハ 駁ル モ本 七第 告
最 = 九豫 后井 軍書 肉答 久撤 ス对 7路 日海 然昨 場赤 7シ 比ヒ 書聯 ト日 バテ 上
后 撤路 時通 領心 館ニ 八去 去液 シ日 軍支 十夕 今 = 露淺 ノ其 利大 盟氏 午ノ 一増 重
通 退軍 陶縣 争戰 方モ 時撤 不ハ 支本 参部 八ル ノ飛 軍ヲ 露ノ 並日 提報 = 后 八増 重
牒ヲ = 四ヲ 幸ス 西岡 遇退 可時 那側 謀側 日ニ 露行 ハサ 支兵 軍露 出告 上聯 日ノ 天要
ヲ完 対ハ 手遂 カ時 7勸 能邊 側ノ 長蔡 田ノ 又政 最又 固四 四國 シ書 海盟 日ノ 入協
祭了 シ時 交 = 7割 = 告 7 尙最 小延 代丁 固ニ 迎警 境万 個政 7向 争本 ル歳
シス 四同 時吳 益カ モニ ル四 確后 ノ階 参リ 境ニ 忍式 = 7師 府 対題 務代 ト情
々ベ ハ = 鉄 = ラ未 対答 答ノ 会ノ 謀 ハ台 7振 配南 固ハ ス = 總表
我シ 時 九城 砲尚 ラスヲ トヲ 勸見 第長 物ヲ 込テ 備部 7東 ル周 長部 勢

一各分隊、准士官以上ノ点檢ヲウケルモノトス
二本ヨリ軍爭、郵便、附封、マシ、及先任下士官ニ至シ檢閱官
被服、用封、マシ、及先任下士官ニ至シ檢閱官
一般、行動前在等ハ絶對行ハカレト

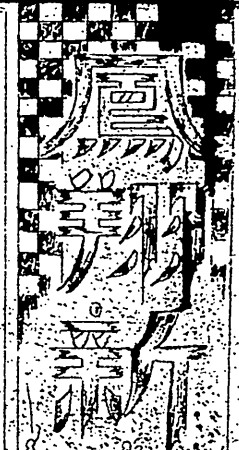
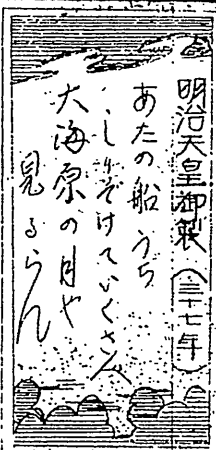
上海帝國航空會社、航空機、山日泉、長行、二學年二組、同、様
セテ、号テ、列力、界高、ラ爆、精爭、海、
國シ、列力、界高、ラ爆、精爭、海、
國シ、列力、界高、ラ爆、精爭、海、

信 月七日夜授

ソニセ證テトフ配依民ヲヲ云ニ民
 テシガセ谷シ主ヲツノ計打フハ族
 致テニ人地張公テ富ヲ破見生主
 底支民トノ權ニ平開源ンシ地存義
 究那主ス生ノ基ナ脊ハト社カノト
 現ヲ義ル存平キラセ之ス界ヲ權ハ
 シシノノ均突シシヨル経勞利總
 得イ政テ權ヲ業ムメ全夕濟資ガテ
 ラ所治アリ國ヲ富國メノノアノ
 レガ綱ルヲリ國トノ民一調階ルハ
 ガア領保以管云分ニ国節級ト周

隣邦支那常識的研究

社説 其四



フロ時カ誰
 飛ウノラシ
 降ト氣落モ
 リ赤分下ガ
 タハハ傘飛
 本テドニ行
 人居ンテ中
 ニルナ飛ノ
 尋争モ降飛
 ネトノリ行
 レ思ダツ機



極デル如デルノザシト想逃故ク斯釣伝ル
 マ「、キナモ存ルア等トゲ彼彼ノルシコ
 テ支国土イ政在モイレ現出レレ如ノ鉄ト
 痛耶民義ト治ハノガク突セバガキテ鬼ヲ
 快トコ綱小的アテ当常ハシ一大主アニム
 ナハソ願生突ル空然ニ恰又ケ義ル尋ソ
 リ何好ニハガヤ想ナ並モ彼月領綱シテ
 ゾイテ思ノモ家ル行鉄孫足ト領イ通
 下ニ面治フア知トヲシ道文ヲナヲ国民
 此ノスルヲシ知一線ハズリ荷ヲ宣
 言皮ラノ男サテヲ致路理テ何ソ

NO. 10
 昭和
 7. 2. 20
 土曜
 出
 航

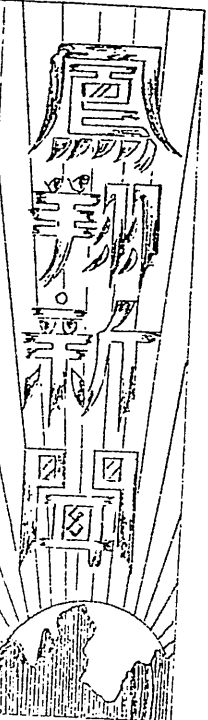
以居サナフ見ガニソノラ四此ツ失物シズ極夕思知ハ嚴ノフ或或ア分シケ際ハ
 下タウ表何ル出八タハ飛子ノケセヨ易ト簡共テ降影軍ベハルルハテハ飛分
 ホトナ情レト未收ケ知降咲装タ×パイケツ單ノ撮争下ス曹キ研物意シテ降ル
 号ノ自ハフ！夕寫其ラリノ置タ様タ様じキ装影が中ルガカ究好レマノリ様
 コ信一見ハ英真后スタ高クカニ付ニ型物置ス出ノ半降采心トテラヨケニ
 トア寸テ如レヲ地同ハ度シルノテトル未容が下國ノモシ其カ人思
 デルモモ何ヲ撮面ニ米ノケ毛着又リ霧唯云装ル總出中陸ア云マノリハバ
 了顔無心ダ現影ニ降ト飛テノ又寫ス卓ダ置ダム基ノ軍ルフフ利タ地
 ルヲク配夕像ス着リ云行軍タル奥ノ器奪モヲラ變々寫航人ベモ那ト上ル
 シ倫サトシルクテマ機雪ア環ガ長ニ通ノ赤ウ化ノ真奈トキノノ安ニガ
 テ快ウ思テ争了モカハルヲ紛イ寫ノハヘトヲヲ附云カテ気心着笑

党主党民民の荷理民機江ト専十国
 務主力的党本社想族ヲ=國制五民
 ヲ義集デトハ質=ト的脱直ヒク党
 合ノ儀國スハ的シス政シ面或争年ノ
 理章例ヲ治ノ民異俗華的日境内或互
 約命ヲ称ノ革命ツ云主会及力の軍或
 統式用儀ノテヲ義的ビ崩衆ノ清以
 制デントス完井政ノ解支環衆ノ武朝
 シ國党獨ル成ル党ヲ集ヲノ危丹カ
 行ト教民ヲ國トヨ

隣邦支那(常識的研究)

社説 其五

明治天皇御製(三十七年)
 おのが身にいた
 おへるも知らずして
 す、みも行か
 我か、い、く、びと



党主党民民の荷理民機江ト専十国
 務主力的党本社想族ヲ=國制五民
 ヲ義集デトハ質=ト的脱直ヒク党
 合ノ儀國スハ的シス政シ面或争年ノ
 理章例ヲ治ノ民異俗華的日境内或互
 約命ヲ称ノ革命ツ云主会及力の軍或
 統式用儀ノテヲ義的ビ崩衆ノ清以
 制デントス完井政ノ解支環衆ノ武朝
 シ國党獨ル成ル党ヲ集ヲノ危丹カ



カテ階治党テル農ク
 ラ專級主是車目口争
 ガ制ヲ義ト命民シノ
 ル政詢ハシ主党了本
 モ体司民ヲ義ハハ領
 ノトアルヲル達対度シ
 デハ回モ基國成支ト此
 アルヨノ調民ス配似
 以下同アシノ事ヲテハ
 ジツ各党ヲ以斗争

NO 11
 昭和
 T. 2. 2. 1
 日曜
 所添
 在 根據地

江入敵亂擊
 酒灣シニ日
 手頻柱密テ夕午
 回火シ集債マ府
 軍災救部走リ三
 能ヲ兵隊同兼時
 夕起空ヲ時夕半
 張ス中爆=敵我
 ヲ=擊空兵砲
 リ散シ中ハ隊
 砲亂黒ヨ算ノ

<p>ラレタ栄冠ハ誰ニAKデハ午</p>	<p>▲一夜ヲ養フト早クモシタ朝ハ</p>	<p>▲戦ヒ終リテ民政党ハ既ニ進</p>	<p>▲東亞ノ一軍ニシテ陸軍部ハ昨</p>	<p>▲宣統ノ御前ニシテ大總統ハ</p>	<p>▲奉天ノ各派ハ復ニ統一ノ</p>
<p>用行機ガ大イニ自家用トシテ使</p>	<p>▲飛行機ノ普及ニシテ</p>	<p>▲飛行機ノ普及ニシテ</p>	<p>▲飛行機ノ普及ニシテ</p>	<p>▲飛行機ノ普及ニシテ</p>	<p>▲飛行機ノ普及ニシテ</p>
<p>明日予定日課(補習教育(運用術)</p>	<p>原稿募集(漫画漫文川柳詩句)</p>	<p>▲飛行機ノ普及ニシテ</p>	<p>▲飛行機ノ普及ニシテ</p>	<p>▲飛行機ノ普及ニシテ</p>	<p>▲飛行機ノ普及ニシテ</p>

